

特集2

大洲市
櫛生小学校

地域内・外から人が集まる施設を目指して

櫛生地域自治会長 坂東 敏幸



私達の古里「櫛生地域」

櫛生は伊予灘に面した旧長浜町であり、小学校のあった櫛生地区と須沢地区からなっています。また、ここは農業・漁業の第一次産業が主となる海と山に囲まれた自然豊かな人口600人余りの地域です。

地域で始まった旧小学校活用のかきかけ

櫛生は大洲市内でも高齢化率が高く、過疎・少子化により地域人口が昭和30年代の3分の1以下となるなど、基幹産業の後継者不足、地域コミュニティの衰退などが進んでいました。

そんな中、子供達が賑わいをもたらし、地域の拠り所であった小学校の閉校が現実問題となってきた時、「自分や子供達が小学校に通った校舎がそのまま暗くなっていくというのが淋しくてたまらない」という声や、「時代の流れを逆手にとって地域の未来を自分達で切り開こう」という地域の声が上がリ、校舎を活用した新たな取り組みを始めることにしました。

最初に新たな取り組みを始めたのは、公民館の女性学級の人達です。女性達の「ピザやってみたいね」という言葉が始まりました。そして事務局で補助金はあるのがあるやろ、と動いていたら、それをじつと見ていた男性部会が「あゝ自分達も何かしたいな」と乗ったのがアワビの養殖です。そして一緒に高齢者への宅配サービスもやってみようじゃないか、

防災も高齢化していく中で整える必要があるんじゃないかと考え、現在に至っています。

地域の住民、地区外から人が集まる施設整備

ピザ作り体験者を受け入れるための小学校調理室の改修、ピザ釜の設置、出来上がったピザを季節の花を見ながら食べるガーデンテラスと休憩所の整備、高価で取引できる収益性と少ない海水量でも飼育が可能ということ、教室のスペースを活用したアワビ養殖施設の設置など、校舎にあった施設を最大限利用して整備を行いました。



旧櫛生小学校の全景



ピザ釜設置



ピザ作り体験受入

ピザ作り体験者受け入れに参画している女性は、櫛生ならではのピザの味にこだわり、地域外から人が集まるように工夫しながら活動しています。そして、独居老人に配達する弁当は調理室で調理しています。

最近、櫛生にある産直市の売上が上昇したのはピザ体験のおかげで、昨年度は、養殖したアワビを地域のお祭りなどで相場より安く販売を行ったところ来場者が例年より増加するなど、地域でのイベントの賑わい創出や交流人口の拡大に貢献していると思っています。

今年度は大洲市の協力で、養殖しているアワビを活用した6次産業化製品の開発に取り組んでいます。

また、昨年は関係者の協力いただき、旧校舎内で婚活イベントを開催しました。食事には養殖したアワビをトッピングしたピザなど、地域の特産品を利用し

旧校舎での活動について

この他、地域コミュニティ対策として独居老人へ弁当を提供するための準備、災害時の防災人員の確保や海抜表示板など地域で整備したものもあります。



アワビ養殖施設

験のおかげで、昨年度は、養殖したアワビを地域のお祭りなどで相場より安く販売を行ったところ来場者が例年より増加するなど、地域でのイベントの賑わい創出や交流人口の拡大に貢献していると思っています。



高齢者に配達する弁当



ガーデンテラスでピザをいただく

た料理を提供しました。これからも婚活など若者にもどんどん利用いただけるような取り組みを工夫したいと思っています。

これから地域で校舎を活用するために

これからは旧校舎を活用していくうえで、なぜ閉校になったのか、その地域背景を皆が理解しておく必要があります。そして、校舎を活用した取り組みが地域住民にメリットをもたらすアイデアになつており、住民が参加できることが大事です。経済的な負担が大きかったり、一部の人が仕事に集中しないようにしなければなりません。

地域には色々な考えを持つ人がいますので、最初から全員の理解を得ることは難しいと思いますが、まずは半数、さらにはより多くの方に理解していただければ、取り組みがピンチとなった時は協力者になつてくれます。

また、参加者全員が取り組みに対する共通認識を持つことが大事です。皆が一緒の認識を持つと活動がブレませんし、誰かにしてもらおうというのではなく、自分のこととしてやるという主体性、責任感も皆で共有する必要があると思います。

旧校舎の活用をスタートさせて課題なども見えてきましたので、一つ一つ皆で解決しながら、地域の宝である校舎を地域の中心として活用していきたいと考えています。